

大地震が発生したときの対応

東京学芸大学附属高等学校

1. 大切なこと

◎普段からどのようにして災害から身を守るかを考えておく。

地震だけでなく、地震後の海の近くにいるときの津波の発生、建物や地下通路などの火災の発生の可能性なども頭に入れておいて下さい。

◎家族と学校に安否を知らせる。

大地震が起きたとき、どのように行動し、互いがどのように連絡し合ったらよいかを家庭で話し合っておいて下さい。また、学校への連絡もお願いします。

◎正しい情報に従って行動する。

防災情報、避難情報、交通情報等の収集に努め、デマや誤情報に惑わされずに行動しなければなりません。

2. 大地震（災害）発生時の行動

大地震が発生した時、どこにいるかによって、その後の行動が異なります。

① 学校の場合

全生徒が一泊することが可能な備蓄品（水、食料、毛布など）は、確保してあります。交通機関が全面的に動かない場合は、学校で泊まることができます。保護者には、ラインネット（一斉配信メール）や学校 HP を使って情報をお知らせします。保護者が迎えに来る事ができる場合のみ、帰宅することが可能です。

② 登下校中の場合

最寄りの駅、携帯電話等で地震の情報や交通機関の現況を把握し、安全に移動できるような場合には、移動することになりますが、その判断は自分で行う事になります。普段から家庭でも話し合っておいて下さい。

- ・ 自宅の近く等、帰宅できる場合には、帰宅して下さい。
- ・ 帰宅できない場合は、広域避難場所などに避難する事になります。東京学芸大学附属高校に近い場合は、学校に来て下さい。

③ それ以外の場合

- ・ 自宅に居た場合は、そのまま自宅で待機して下さい。
- ・ 外出していた場合、帰宅するか、あるいは避難場所に避難する事になります。その判断は自分で行う事になります。普段から家庭でも話し合っておいて下さい。

3. 連絡方法

大地震後は、通信回線が混雑し、思うように連絡がとれない事態が予想されます。電話をはじめ、コンピュータも使用できないことを想定しなければなりません。

① 生徒（保護者）から学校への連絡

しばらく登校ができないような大地震が発生した場合には、学校に身の安全を知らせるためのものとして、「安否報告」を学校にして下さい。学校として知りたい情報は下記の内容です。

安否情報

1. 学年（期） 組 氏名
2. 本人及び家族の怪我などの有無や状況
3. 現在の所在（住所）、連絡先（携帯電話番号、メールアドレスなど）
4. その他

電話の場合：03-3421-5153 Fax：03-3421-5152

メールの場合：kgk2@gakugei-hs.setagaya.tokyo.jp

ハガキの場合の学校住所：〒154-0002 東京都世田谷区下馬4-1-5

② 学校から生徒（保護者）への連絡

次の2通りの方法を用意しています。

1. 基本的には校務システム（Blend School 等）で、保護者への連絡をいたします。
2. 同じ内容を本校HPに載せます。

③ 生徒と家族間の連絡

大地震が発生したときには、お互いの安全が一番大切な情報になります。普段から、連絡方法を話し合っておいて下さい。NTT 災害伝言ダイヤルサービス、携帯各社の災害伝言板サービスなどがあります。

4. 学校の再開

学校の再開については、校務システム（Blend School 等）や学校のHPなどを使って、お知らせします。